

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東砂6-16-1 TECresidence1階
施設名	もりのなかま保育園東砂園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

日常にある物や事象に対する探究

〈テーマの設定理由〉

普段の保育の中で日常にある物や事象に対して、特定の一つに焦点を当てることで、その物や事象を多角的な視点から捉え、より深く探究することができる。今回、日常的な物や事象をテーマに選んだ理由は、そこに子ども一人ひとりの興味関心を反映させることで、子どもの好奇心を受け止め、引き出し、新たな発見に導けると考えた為。

2 活動スケジュール

7月 「日常にある物や事象に対する探究」～片栗粉～
8月 「日常にある物や事象に対する探究」～氷～
9月 「日常にある物や事象に対する探究」～小麦粉～
10月 「日常にある物や事象に対する探究」～石鹼～
11月 「日常にある物や事象に対する探究」～酢と重曹～
12月 「日常にある物や事象に対する探究」～オレンジ～
1月 「日常にある物や事象に対する探究」～オイル～
2月 「日常にある物や事象に対する探究」～色～
3月 「日常にある物や事象に対する探究」～これまでの活動を通して興味を持ったこと～

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

子どもたちが興味を持った身近な素材・・・小麦粉・片栗粉・酢・オレンジ・氷等
それぞれが活動に取り組めるような道具・・・トレー・マドラー・カップ
興味を深めるための道具・・・マイクロスコープ
活動がしやすく、子どもたちの言葉や気づきを聞き取りやすい少人数の環境構成

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

日常にある物や事象から子どもたちが興味を持った素材でテーマを決め、毎月複数回の活動を行った。混ぜ合わせたり、触ったりすることで生まれる「なんで？」「どうして？」などの子どもたちの言葉や表情をメモや写真で記録した。昼に他クラスの職員も含めて、活動の振り返りを行い、子どもたちの興味や様子などについて理解を深めた。保護者にはドキュメンテーションを作成し、玄関掲示・ブログで活動の様子を共有した。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

素材に様々な混ぜ合わせることで起きる変化を目で見たり触ったりすることで、子どもたちは「すごい！」や「おもしろいね」と、驚く様子が見られた。初めは保育士が「どれを入れたい？」など混ぜ合わせるものを聞いて、子どもたちが選んで入れていたが、活動を繰り返し行っていくうちに、「これを入れてみたい」「これを入れたらどうなるかな？」など子どもたちから意欲的に活動に取り組むようになっていった。また、「私はこれを入れたよ」や「何入れたの？」と友だちの活動にも興味を示し、見せ合ったり、触り合ったりする姿も見られた。保育者は子どもたちの「これしたい」「これをしたらどうなるかな？」の声に耳を傾け、子どもたちのやりたいことをできるようにサポートし、探究を深めていった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

0～2歳児でも様々な素材に興味をもち、深く探究しようとする姿勢が見られたことが印象的だった。子どもたちそれぞれが疑問を持ち、自主的に提案したり方法を考えたりする姿が見られ、子どもたちにとって疑問を持つことが楽しい活動であり、好奇心が生まれるのだと感じた。繰り返し行っていくことで、探究心や創造力が育まれてきており、日常の保育の中でも「なんでだろうね？」「こうしたらこうなるのかな」と、探究したり考えたりする姿が増えてきた。また、友だちとの共有や協力により、新たな視点生まれ、さらに活動が広がっていった。0・1歳児は言葉での表現がまだ十分でないことから、視覚的・触覚的な刺激が効果的だと実感した。